証券コード：4901

December 2018

FUJIFILM NEWS

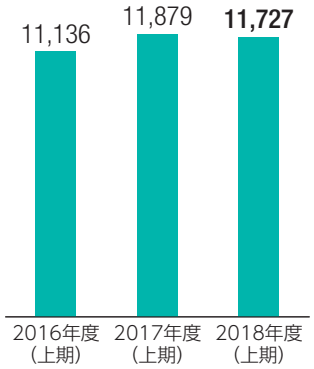
Vol.99

2018年度上期 決算ハイライト

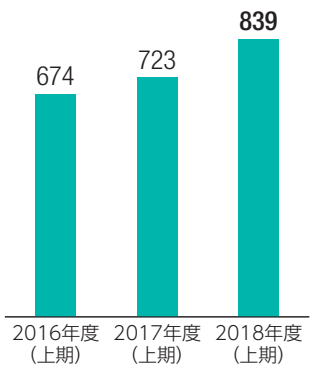
2018年度上期決算のポイント

売上高	低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどにより ドキュメント事業が減収となるも、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、 ディスプレイ材料事業、電子材料事業が伸長し、1兆1,727億円（前年同期比1.3%減）
営業利益	メディカルシステム事業、ディスプレイ材料事業、電子材料事業などが増益、 ドキュメント事業が大幅増益により、839億円（前年同期比16.0%増）
税金等調整前 四半期純利益	昨年度に和光純薬工業（現　富士フイルム和光純薬）の連結子会社化による 株式評価益を計上していた影響により、988億円（前年同期比1.3%減）
当社株主帰属 四半期純利益	上記と同じ影響により、655億円（前年同期比7.6%減）

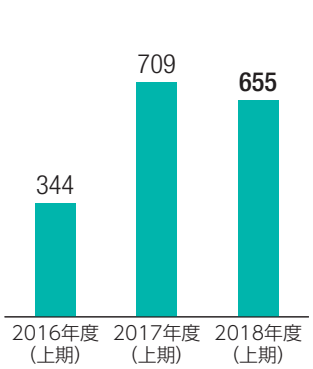
■ 売上高（単位：億円）



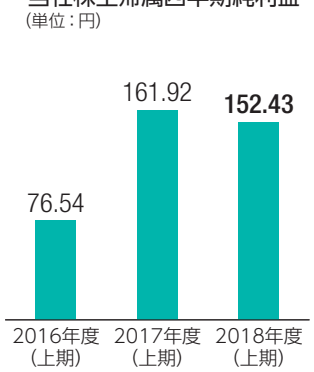
■ 営業利益（単位：億円）



■ 当社株主帰属四半期純利益（単位：億円）



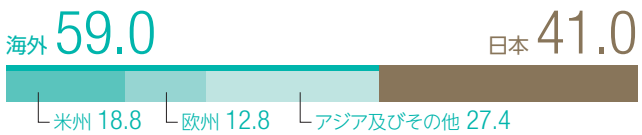
■ 基本的1株当たり当社株主帰属四半期純利益（単位：円）



※2017年度（上期）の営業利益については、米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

■ セグメント別売上高構成比（単位：%）

■ 海外売上高比率（単位：%）



詳細な財務情報は、当社ウェブサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

アドレスはこちら > **http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html**

FUJIFILM
Value from Innovation

株主の皆様へ

「NEVER STOP」
立ち止まらず、常に挑戦し続ける

代表取締役会長・CEO　古森重隆

代表取締役社長・COO　助野健児

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、豪雨や地震など各地で自然災害の多い一年となりました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

2019年度を最終年度とした中期経営計画「VISION2019」も、折り返し地点となりました。2018年度上期の連結売上高は、前年度並みの1兆1,727億円。営業利益は、ドキュメント事業の構造改革や収益率の向上により前年同期比16%増益の839億円となり、計画に対して順調に進捗しました。

2018年度中間期の配当金は、1株当たり40円といたしました。期末配当金も同様に1株当たり40円を予定しており、年間配当金は9期連続増配となる、前年同期比5円増配の80円を予定しております。また、本年9月より総額1,000億円を上限とした自己株式取得をスタートしており、株主の皆様への利益還元を積極的に行っております。

富士フイルムの幅広い事業領域と、それぞれの分野でイノベーティブに社会課題の解決に貢献する姿を広くご理解いただくことを目的に、10月よりグローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」を開始しました。当社は創業以来数々の困難に直面しても、決して立ち止まらず挑戦し続けることで成長してきました。歴史を振り返れば、写真業界でトップを走っていた米国コダック社に対して「NEVER STOP」で挑み続け、技術的にも凌駕し世界市場でプレゼンスを高めてきました。2000年以降は、写真フィルムの急激な需要減少という本業消失の危機にも果敢に立ち向かい、「第二の創業」を掲げて「NEVER STOP」で経営改革を断行し、大きく事業構造を転換してきました。そして今、当社は幅広い分野において、これまで培ってきた幅広い高度な技術をさらに進化させて応用し、新たな価値を提供し続けています。この、企業として進化する営みについても「NEVER STOP」で進めていく所存です。今回「NEVER STOP」のキャンペーンを通じて、このような富士フイルムの挑戦し続ける企業姿勢を広く世界に伝え、グローバルでのさらなる成長を目指します。

将来にわたって成長し続けるための重要な技術として、現在当社が注力しているのがAI(人工知能)です。AIは、幅広い分野で人間の判断や分析をサポートする、大きな可能性を持った技術です。10月には、東京・丸の内に次世代AI技術を開発する拠点FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)(ブレインズ)」を開設しました。当社は、これまでも医療画像診断などの分野でAIを積極的に開発してきました。この拠点を活用してアカデミアとも協働し、さらに技術を進化させ、より高度な社会課題を解決する革新的な製品・サービスを提供していきます。

今後も当社は「NEVER STOP」をキーワードに、決して立ち止まることなく全社をあげて挑戦し続け、さらなる成長を目指します。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年12月

富士フイルムグループトピックス

TOPICS 1

グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」を展開

当社の多岐にわたる事業領域や挑戦し続ける企業姿勢を広くお伝えするため、2018年10月よりグローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」を展開しています。

当社はかつて写真業界で強力なライバルとの競争に挑み、技術力を高めて世界中の市場でプレゼンスを上げてきました。さらに、2000年以降の写真フィルムの急激な需要減少に対しては、事業構造を大きく転換し、写真領域のみならず、ヘルスケア事業、高機能材料事業、ドキュメント事業を展開する多角化企業として生まれ変わりました。特にヘルスケア事業においては、「予防」から「診断」「治療」の3つの領域をカバーするトータルヘルスケアカンパニーを目指して挑戦を続けています。2014年にはコーポレートスローガン「Value from Innovation」を制定し、イノベーションによって社会に価値ある革新的な「技術」「製品」「サービス」を生み出し続けることを宣言しました。本キャンペーン「NEVER STOP」では、このスローガンの下、「先進独自の技術で新たな価値を提供し、さまざまな社会課題の解決に貢献するとともに、常に成長するために絶えず向上・前進し続ける」というグループの意志と姿勢を世界中の人々に伝えていきます。

「NEVER STOP」キャンペーンサイト：https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp/

TOPICS 2

社会問題を解決する、より高度な次世代AI技術の開発拠点 FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)（ブレインズ）」を開設

2018年10月、次世代AI技術の開発拠点、FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)（ブレインズ）」を東京・丸の内に開設しました。

当社はこれまで医療画像診断などの分野で、画像から必要な情報を読み取るAI技術を開発してきました。今後は事業活動で得られるさまざまなデータや画像情報と組み合わせ、最先端技術の研究を進めているアカデミアと密に連携・協働することで総合的な理解や判断で、現場を支援する次世代AI技術へと発展させていきます。

「Brain(s)」では、その他にも日本の未来の産業をリードするAI／ICT人材の育成、当社技術・製品と社外ICT技術を掛け合わせるICTオープンイノベーションでのビジネス化の加速という、計3つのテーマに取り組みます。これらにより幅広い分野で活用できるAI技術の開発をより強力に推進し、社会課題を解決する革新的な製品・ソリューションを提供していきます。

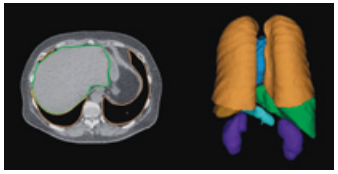
■ Brain(s)で取り組む3つのテーマ

AI技術活用例

医療画像診断を支援するAI技術ブランド“REiLI（レイリ）”

REiLI

富士フイルムが培ってきた画像認識技術と診療データを組み合わせ、医療画像診断を支援するAI技術の開発を進めています。さらに医療機器の保守サービスなど、医療領域の現場をAI技術で支えます。



撮影画像から臓器の位置や形状などを把握するためのAI技術を開発中。

セグメント別概況

イメージング ソリューション

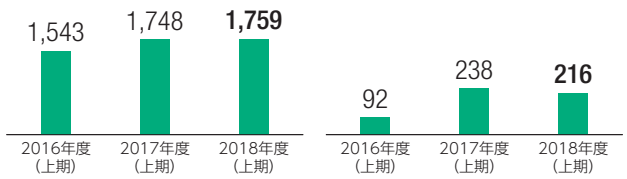
<事業>
フォトイメージング、
電子映像、光学デバイス

「FUJIFILM X-T3」

「instax SQUARE SQ6」

■ 売上高（単位：億円）
1,759億円
（前年同期比0.6%増）

■ 営業利益（単位：億円）
216億円
（前年同期比9.1%減）



≫業績概要
- フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移。
- 電子映像では、9月に「FUJIFILM X-T3」を発売。高速・高精度オートフォーカスや高い動画性能が評価され、販売が好調。各種交換レンズの販売も堅調に推移。

≫今後の取り組み
- フォトイメージングは、インスタントフォトシステムのグローバルでのプロモーションを強化し、売上拡大とブランド認知度向上を図る。
- 光学・電子映像は、ミラーレスデジタルカメラのハイエンド機や、4K対応の放送用レンズなどの高付加価値製品に注力し、さらに収益性を向上。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

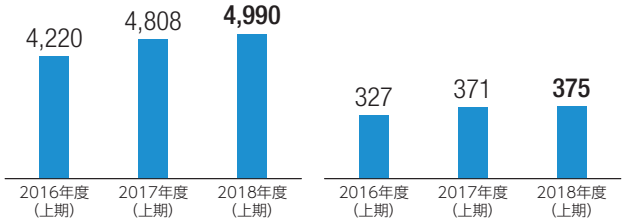
<事業（ヘルスケア）>
医薬品、バイオCDMO、再生医療、
メディカルシステム、ライフサイエンス

<事業（高機能材料 等）>
ディスプレイ材料、産業機材、電子材料、ファインケミカル、
記録メディア、グラフィックシステム、インクジェット

医用画像
情報システム
「SYNAPSE」

■ 売上高（単位：億円）
4,990億円
（前年同期比3.8%増）

■ 営業利益（単位：億円）
375億円
（前年同期比1.0%増）



≫業績概要
- メディカルシステムは、X線画像診断機器や内視鏡などを中心に販売が好調に推移。
- 医薬品は、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン錠」を国家備蓄として供給。バイオCDMOは、設備増強がバイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託増に寄与。
- ディスプレイ材料はタック製品の販売が堅調だったことに加え、タッチパネル分野、有機EL分野の製品販売が好調に推移。

≫今後の取り組み
- メディカルシステムは、X線画像診断機器、医療IT、内視鏡、超音波、体外診断（IVD）など全ての分野で売上を拡大。
- バイオCDMOは、積極的な設備投資により生産プロセス開発・生産体制をさらに強化し、収益力強化で成長を加速。
- ディスプレイ材料はタッチパネル、有機ELなど新規分野での売上を拡大。

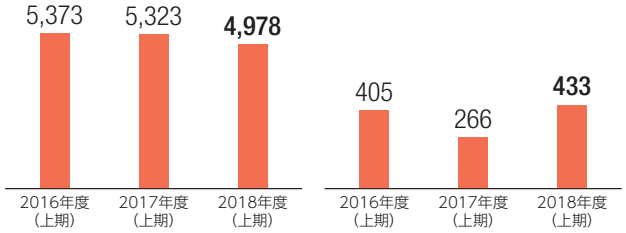
ドキュメント ソリューション

<事業>
オフィスプロダクト&プリンター、
プロダクションサービス、
ソリューション&サービス

「Iridesse™ Production Press」

■ 売上高（単位：億円）
4,978億円
（前年同期比6.5%減）

■ 営業利益（単位：億円）
433億円
（前年同期比63.0%増）



≫業績概要
- オフィスプロダクトでは、中国市場向けに開発した複合機の販売が堅調に推移。
- オフィスプリンター分野では、低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小。
- ソリューション&サービスは、業種・業務別ソリューションの販売やBPO（Business Process Outsourcing）契約による売上が堅調に推移したが、仕入れ商品に対する売上の計上方法を変更した影響により、全体の売上は対前年で減少。

≫今後の取り組み
- 新しい価値提供戦略「Smart Work Innovation」のもと、独自のAI（人工知能）技術などを活用したサービスを順次提供し、サービス領域でのさらなる成長を目指す。
- 構造改革の完遂により収益性を確保し、持続的な成長を実現できる事業基盤を確立。

※2017年度（上期）の営業利益については、米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

新製品NEWS

Imaging Solutions

「instax SQUARE SQ6 Taylor Swift Edition」新発売

instax“チェキ”のグローバルパートナー、テイラー・スウィフトさんがデザインを監修したスクエアフォーマット対応のインスタントカメラ。ブラックを基調としたスタイリッシュなデザインで、自分撮りなど、さまざまなシーンでの撮影が楽しめます。

Imaging Solutions

スマホアプリ「超簡単プリント」提供開始

わずか3ステップだけでスマホから簡単に写真プリントを注文できるアプリ。メール便によるご自宅での受け取りができるほか、全国のセブン-イレブン店舗で、すぐに高画質なプリントが楽しめます。

超簡単プリント 検索

Imaging Solutions

ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T3」新発売

独自の色再現技術で卓越した写真画質を可能にする「Xシリーズ」のミラーレスデジタルカメラ。新開発の画像センサーと高速画像処理エンジンを搭載し、シリーズ史上最高の画質とオートフォーカス精度を実現しました。

Healthcare & Material Solutions

携帯型X線撮影装置「CALNEO Xair」新発売

GOOD DESIGN AWARD 2018 グッドデザイン金賞

総重量3.5kgの軽量・小型で、手軽に持ち運ぶことができる携帯型X線撮影装置。在宅医療での撮影など、スペースが限られた場所で簡便なX線撮影と画像確認をサポートします。

Document Solutions

A3フルカラー複合機「DocuCentre-VI C2264」新発売

テレワークなどの多様な働き方を支援する中小規模オフィス向けA3フルカラー複合機。クラウドサービスとの連携に対応するなど、コンパクト設計ながら上位機種と同様にオフィスのハブとして活躍します。

シリーズ：社会のニーズに応える富士フイルムグループのヘルスケア事業 －バイオCDMO編－

ニーズの高まるバイオ医薬品の安定供給に貢献

当社は、中期経営計画「VISION2019」において、ヘルスケア領域を成長領域と位置付け、重点的に経営資源を投入し、事業成長を加速させています。
このシリーズでは、株主の皆様に当社のヘルスケア領域における強みや今後の成長性を広くご理解いただくため、具体的な取り組みをご紹介しています。
第2回は、副作用が少なく高い効能が期待できることから、近年需要が高まっているバイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託を行うバイオCDMO※事業を取り上げ、参入以来二桁成長を続ける当社の強みを紹介します。

※CDMOとは：Contract Development & Manufacturing Organizationの略で、他社との契約に基づいて医薬品などの生産プロセス開発や製造を受託する組織。

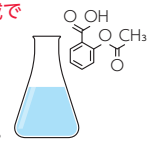
バイオ医薬品製造の課題

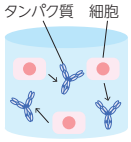
生物由来の細胞や微生物などを活用して作るため製造の難易度が高いこと

抗体医薬などに代表されるバイオ医薬品は、化学合成で作られる低分子医薬品と異なり、細胞や微生物などに薬効成分である高分子タンパク質を作らせ、それを精製して製造します。そのため温度など微妙な環境変化にも影響されやすく、高い品質のものを安定的に製造すること、生産効率を高めることが非常に難しい製品です。

■ 低分子医薬品とバイオ医薬品の違い

低分子医薬品	バイオ医薬品
・化学合成で作る	・細胞に作らせる
目的とする化合物を合成して製造。	細胞などに薬効成分であるタンパク質を作らせて製造。





バイオ医薬品製造の課題を解決する「バイオCDMO」

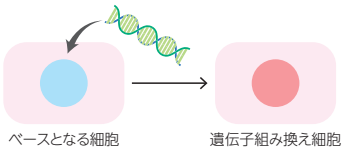
バイオ医薬品の生産プロセスの開発・製造を受託

このように製造が難しいバイオ医薬品においては、製薬企業やバイオベンチャーなどが、優れた技術と設備を有する企業に生産プロセスの開発や製造を委託するケースが世界的に急増しており、バイオCDMO市場は年率8％の高成長を続けています。

バイオ医薬品の製造に重要となる技術は大きく二つあります。一つめは細胞や微生物を利用して薬効成分であるタンパク質を効率的に作る技術であり、当社は、2011年同技術において世界トップレベルのバイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託会社（現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies（以下FDB））を買収し、市場拡大が期待されるバイオCDMO事業に参入しました。重要な技術の二つめは、当社が強みを持つ製造時の各種条件をムラなく一定に保つ技術や高度な品質管理技術であり、これらを組み合わせることで、バイオCDMO事業は現在当社のヘルスケア領域における主要事業の一つとして成長を続けています。

■ バイオ医薬品の製造プロセス

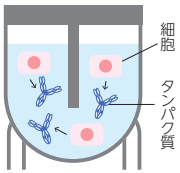
① 目的のタンパク質を作る細胞を作製



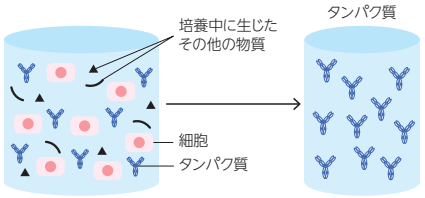
目的のタンパク質の情報が書かれた遺伝子をベースとなる細胞に組み込む

② タンクで細胞を培養し、タンパク質を作る

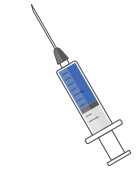
温度や撹拌などの製造条件を一定に保つことが重要



③ タンパク質のみを抽出・精製する



④ 製剤化する



バイオ医薬品へ

富士フイルムグループの「バイオCDMO」における強み

世界トップレベルのタンパク質産生技術を持つFDB

FDBは米国と英国に拠点を持ち、多くの製薬企業などからバイオ医薬品の生産プロセス開発・製造を受託しているグループ企業です。同社が持つ細胞培養技術を活用して開発したApollo™（アポロ）技術は、バイオ医薬品の量産に適した細胞を従来の約2/3の期間で作るとともに、その細胞を用いて従来の約5倍のタンパク質を作ることが可能で、生産性の向上に大きく寄与する画期的な技術です。

また、FDBは医薬品の製造を受託するだけでなく、目的のタンパク質を作るのに適した細胞の開発や、医薬品を効率的に製造するプロセスの開発などの「開発受託」にも強みを発揮しています。品質・開発スピードなど顧客企業からの厳しい要求に長年応えてきたFDBの実績は高く評価されており、製造受託・生産プロセス開発受託ともに受注が増えています。

バイオCDMOの重要な要素

FDB
タンパク質を効率的に作る技術
Apollo™
高生産性細胞作製技術
「Apollo™」

＋

富士フイルム
一定条件製造技術・品質管理技術

写真フィルムの製造で培った高い技術

写真フィルムで培った高い製造技術・品質管理技術を持つ富士フイルム

タンクで細胞を培養するバイオ医薬品の生産プロセスにおいて、少しでも温度条件の変化や異物の混入が起きると、タンク内の薬剤が全て使えなくなり、多額の損失が発生してしまいます。富士フイルムはFDBをグループ化した後、同社の生産プロセスを細かく分析し、長年写真フィルムの製造で培ってきた優れた一定条件製造技術、品質管理技術をベースにどこに課題があるかを徹底的に洗い出し、改善を進めました。さらに、作業手順の標準化やマニュアル化を徹底することなどにより、温度など細胞の培養に最適な条件を安定的に維持することができるようになり、生産効率が約2割向上しました。

当社が手掛けてきた写真フィルムは人生の大切な瞬間を記録して残すもので、1本の不良品も許されない製品として、高い品質、信頼性が求められてきました。そのため当社は長年写真フィルムの製造において、高品質な製品を均一に大量に生産し、安定的に供給するために、一定条件を保って製造する技術や高度な品質管理技術を磨いてきました。バイオ医薬品も同様に品質・信頼が不可欠な製品です。このような共通の課題において長年培った技術を共有することで、事業の改善に大きく寄与しています。

Voice

お客様から信頼されるCDMOであり続ける

当社が富士フイルムグループの一員になってから、生産プロセス開発・生産設備の増強や効率化が進み、お客様からのより幅広い要望にスピーディーに対応できるようになりました。また、社内では「新しいことにチャレンジしよう」というイノベーティブな雰囲気が醸成されてきました。これからもニーズの高まるバイオ医薬品を高品質・安定的に提供することにより、大きく事業を成長させ、「明日の医療」の進歩に貢献していきます。

FUJIFILM Diosynth Biotechnologies
CEO
Steve Bagshaw

バイオCDMO事業の今後の展開

副作用が少なく高い効能が期待できるバイオ医薬品の需要は年々高まっており、多くの企業から当社の実績が評価され、受注が増えています。また、近年では症状を細かく分類し、症状ごとに適した薬剤を使う傾向が加速しており、バイオ医薬品も多品種少量化が進んでいます。当社はこれらのニーズに積極的に応えるため、継続してバイオ医薬品のプロセス開発・生産設備への投資を行い、生産能力の増強を図るとともに、多品種少量生産に適した、製造する薬剤の切り替え作業を最小限にできるシングルユース型の生産設備などの追加導入を進めています。

当社はさらなる生産能力の増強を行うとともに、グループの技術を結集してバイオ医薬品をより効率的に作るための技術開発を進めることで成長戦略を推し進め、ニーズの高まるバイオ医薬品の高品質・安定供給に貢献していきます。そして2023年度にはバイオCDMO事業で1,000億円の売上、世界No.1を目指して、当社のヘルスケア領域の成長を牽引していきます。

バイオCDMO市場
世界No.1を目指す

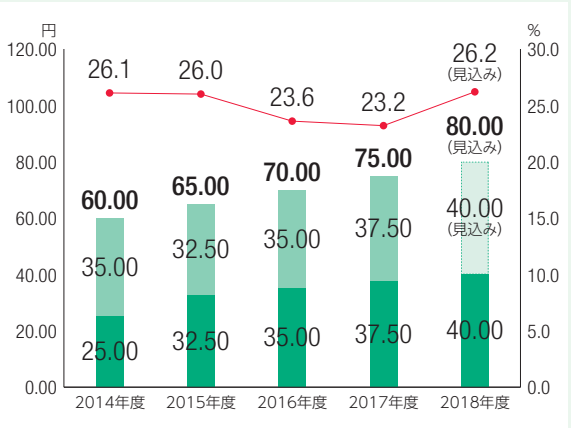
投資家インフォメーション

株式データ

株価 5,115円	単元株式数 100株
必要投資金額 511,500円	証券コード 4901
PER 16.75倍	PBR 1.04倍

※2018年9月28日終値をもとにしています。

■ 配当金/配当性向の推移



会社概要 (2018年9月30日現在)

会社名	富士フイルムホールディングス株式会社
設立	1934年1月20日
資本金	40,363百万円
本社	東京都港区赤坂9丁目7番3号
連結従業員数	75,329名

株主優待のご案内

株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、長期的に保有していただくことを目的とした株主優待制度をご案内いたします。

12月実施 (基準日:2018年9月30日)

- **単元株(100株)以上保有の株主様**
  当社ヘルスケア製品優待価格販売(お申し込み制)
- **1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様**
  当社フォトブック作成用クーポン券(1,000円分)プレゼント
- **3年以上、500株以上保有の株主様**
  当社フォトブック作成用クーポン券(4,000円分)プレゼント

* 写真はサンプルです。保有年数及び保有株式数により、1,000円分と4,000円分のいずれかのクーポン券(株主優待専用ウェブサイトからのお申し込みに限り使用可能)をお送りします。

7月実施 (基準日:2019年3月31日)

※2019年度の株主優待より内容が変更となります。
下線部が前年度からの変更点です。

- **単元株(100株)以上保有の株主様**
  当社ヘルスケア製品優待価格販売(お申し込み制)
- **1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様**
  当社ヘルスケアトライアルキット及びヘルスケア製品
  (計2,000~3,000円相当)プレゼント(お申し込み制)
- **3年以上、300株以上500株未満保有の株主様**
  当社ヘルスケア製品(4,000~5,000円相当)プレゼント(お申し込み制)
- **3年以上、500株以上保有の株主様**
  当社ヘルスケア製品(9,000~10,000円相当)プレゼント(お申し込み制)
  化粧品コース・サプリメントコースの選択制。

* なお、対象製品やお申し込み期限など、詳細は別途ご案内を差し上げます。
* 1年以上あるいは3年以上保有の株主様とは、基準日現在の株主名簿上で、当初取得日が1年前あるいは3年前の同日以前の方です。
* 1年以上、単元株以上保有の株主様対象の優待については、初年度(2019年度)のみ、継続保有期間が1年未満の場合でも、株主名簿上の当初取得日が2018年9月30日以前(新制度公表前)の方には進呈いたします。
* 写真は2018年度実施の株主優待における製品です。

FUJIFILM

GPN Green Purchasing Network
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080